



ご当地 よ坊さん 茨城

No.559

茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

November
2015
平成27年

11

茨 歯 会 報



Contents

デンタルアイ	1
榊 正 幸	
理事会報告	3
会務日誌	5
社会保険委員会だより	9
学術委員会だより	11
地域保健だより	19
医療管理委員会だより	22
学校歯科委員会だより	30
センターだより	35
専門学校だより	37
地区歯科医師会だより	39
中 村 敦	
寄稿	42
小 倉 和 夫	
田 中 晃 伸	
リレー通信	53
大 岩 真	
レディースコーナー	55
川 崎 菜穂子	
国保組合 NEWS	57
歯科コラム	58
赤えんぴつ	59

表紙写真について

西山荘（常陸太田市）は水戸藩二代藩主徳川
光圀の隠居所です。

（社）日立歯科医師会 白土 和彦

理事会報告

第8回理事会

日 時 平成27年10月15日（木）午後4時

場 所 茨城県歯科医師会館 会議室

1. 報 告

- (1) 一般会務報告
- (3) 後援依頼について
 - ①スミセイさわやか介護セミナー（茨城新聞社）
 - ②平成27年度茨城県医療安全研修会（県厚生総務課）
- (4) 共催依頼について
北関東在宅医療推進フォーラム（県医師会）
- (5) 日本体育協会公認スポーツデニティスト協議会設立總會等への派遣依頼について
- (6) 平成27年度医療安全研修会報告
- (7) HIV医療講習会契約書（案）について
2016年2月10日 つくば ホテル東雲
開催予定
- (8) 10月開業予定の歯科医院について
- (9) 第54回全日本学校歯科保健優良校表彰における文部科学大臣賞の正式決定ならびに表彰式について
- (10) 平成27年度歯と口の健康に関するポスターコンクールの結果について
- (11) 平成27年度歯・口の健康啓発標語コンクールの審査結果について
- (12) 各委員会報告について
学術委員会、厚生委員会、地域保健委員会、介護保険委員会、学校歯科委員会、社会保険委員会、専門学校
- (13) 茨城県医師会との懇談会について

(14) 監査報告

2. 協議事項

- (1) 茨歯会が所有するデータ等使用し学術発表をする際の規程（もしくは内規）について
標記について、継続して審議することとした。
- (2) 平成28年度事業計画及び予算案の提出について
標記予算案の提出について、12月10日までに提出することとした
- (3) 茨城県民歯科保健大会・歯と口の健康フェスティバルについて
標記について、駐車場等協議した
- (4) 保健福祉部との協議会提出議題について
標記について承認した
- (5) 災害見舞金について
標記について、厚生委員会が調査を行い継続して審議することとした
- (6) 義援金募集・送金等の対応について
標記について継続して審議することとした
- (7) 茨城県学校保健会学校保健ほう賞に係る被推薦候補者について
標記候補者について、会長に一任することとした
- (8) 災害時における医療救護活動協定の締結について
 - ①茨城県歯科衛生士会
 - ②茨城県歯科技工士会
 - ①②ともに承認することとした
- (9) カルテングジャーについて（継続審議）
標記について、承認した
- (10) 第74回国民体育大会開催への対応について

(継続審議)

標記について医師会等の対応を調査し、継続して審議することとした

- (11) 歯科衛生士科学生の就職について (継続審議)
標記について専門学校で対応することとした
- (12) 公益社団法人茨城県歯科医師会特定個人情報取扱規程案について
標記規程案について承認した
- (13) 診療所への募金箱設置依頼について (公財

いばらき腎臓財団)

標記募金箱設置について承認した

(14) その他

- 専門学校ユニット納入業者の選定方法について
承認した
- 日本歯科医師会会長について
会長に一任することとした



株式会社 岩瀬歯科商会



昭和の幕開けと共に栃木県で創業した弊社は、今年で90年目を迎えます。
皆様方への感謝を忘れず、未来を見据えた歯科ディーラー像を創造して参ります。

イワセオリジナルユニット
SIGNO NEXT

こだわりと好みをひとつずつ反映しながら、
ワンランク上のラグジュアリー空間と
心地よさを演出します。



事業所案内

本社	台東区台東2-23-7	TEL:03-3832-8241
宇都宮支店	宇都宮市平出工業団地37-6	TEL:028-613-5858
水戸支店	水戸市白梅2-8-18	TEL:029-225-6543
松戸支店	松戸市幸谷観音下159-1	TEL:047-345-3131
千葉支店	千葉市中央区浜野町879-1	TEL:043-305-1182
上野支店	台東区台東2-23-7	TEL:03-3832-8241
古河支店	古河市下山町9-60	TEL:0280-30-1582
福島支店	福島市鎌田字卸町4-1	TEL:024-552-1161
世田谷支店	世田谷区玉川台2-11-17-101	TEL:03-5491-7595
練馬営業所	練馬区豊北4-14-11	TEL:03-5912-1180
横浜支店	横浜市栄区小菅ヶ谷1-28-9-101	TEL:045-895-3808
5月GW明け以降	横浜市磯子区中原2-1-19	NEW TEL:045-770-4182
前橋支店	前橋市紅雲町1-22-2	TEL:027-243-8241
5月GW明け以降	高崎市京目町176-2	NEW TEL:027-350-8241
厚木支店	厚木市酒井2087-14	TEL:046-228-5550
大宮支店	さいたま市見沼区東大宮7-41-1	TEL:048-688-1740
盛岡支店	盛岡市上堂1-6-5	TEL:019-648-2777
東大和支店	東大和市立野3-640-1	TEL:042-590-5770

<p>■ 一般社名 株式会社 岩瀬歯科商会</p> <p>■ 代表者 代表取締役社長 岩瀬 浩二</p> <p>■ 代表取締役 代表取締役副社長 岩瀬 浩二</p> <p>■ 代表取締役 代表取締役副社長 岩瀬 浩二</p> <p>■ 代表取締役 代表取締役副社長 岩瀬 浩二</p>	<p>製造販売・製造</p> <p>株式会社モリタ東京製作所</p> <p>本社工場 埼玉県さいたま市中央区上落合 2-11-24 TEL:048-882-1315</p> <p>伊原工場 埼玉県北足立郡伊原町小室 7129 TEL:048-723-2621</p>	<p>発売</p> <p>株式会社モリタ</p> <p>大阪本社 大阪府吹田市豊水區 3-33-18 TEL:06-6380-2525</p> <p>東京本社 東京都台東区上野 2-11-15 TEL:03-3834-6161</p>
--	--	--

会務日誌

- 10月20日 第2回関東地区歯科医師会会長会議がアルカディア市ヶ谷にて開催され、日歯第181回臨時時代議員会、日本学校歯科医会に関する件について協議を行った。
出席者 森永会長
- 10月22日 第181回日歯臨時時代議員会が日歯会館にて開催され、政治資金規正法違反容疑による逮捕を受けての対応について協議を行った。
出席者 森永会長ほか2名
- 10月22日 第74回国体茨城県準備委員会第2回募金・企業協賛推進委員会がホテルテラスザガーデン水戸にて開催され、募金・企業協賛の他県の状況ほかについて協議が行われた。
出席者 鈴木事務局長
- 10月22日 専門学校にて指定校推薦入試を実施。歯科衛生士科に対し18名の受験者があり、同日行われた合否決定委員会にて歯科衛生士科18名を合格とした。今回は歯科技工士科に対する受験者はなかった。
- 10月27日 第53回手をつなぐ育成会茨城大会が県民文化センター小ホールにて開催された。
出席者 森永会長
- 10月27日 摂食嚥下研修会の第4回目を開催。「摂食嚥下機能訓練の実際①」の研修を行った。
受講者 86名
- 10月27日 常総市鬼怒川水害におけるJMAT茨城活動の反省会及びJMAT茨城ロジスティックス（仮称）打合会が県医師会にて開催され、JMAT茨城活動ほかについて協議が行われた。
出席者 小鹿副会長ほか3名
- 10月28日 労働保険事務組合の業務における監査・事務指導が茨歯会館にて実施された。
出席者 須能
- 10月29日 第9回歯科助手講習会を開催。「社会保険の仕組み」、「小児矯正」、「歯科界の事情」、「産業廃棄物の処理」、「情報処理」について講義を行った後、閉講式が行われた。
受講者 56名
- 10月29日 関東信越歯科医師会審査委員連絡協議会が日歯会館にて開催される。基調講演「平成28年度診療報酬改定に関するテーマ」の後に各都県からの18の提出議題について協議が行われた。
出席者 榊常務ほか6名
- 10月29日 新規に指定された保険医療機関への集団指導が县市町村会館にて実施された。
対象医療機関数 15
- 10月29日 第79回全国学校歯科保健研究大会が長野市「ホクト文化ホール」にて開催された。メインテーマを「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して」に、初日は表彰式、ポスター発表、基調講演、シンポジウムが行われ、2日目には、5つの領域別研究協議会、

領域別協議会報告が行われた。

出席者 千葉理事ほか1名

- 11月 1日 睡眠時無呼吸症候群講習会を開催。「閉塞性睡眠時無呼吸障害OSAに対する歯科の役割ーそのいびき歯科で治るかもしれませんー」をテーマに、日本大学歯学部口腔外科学講座口腔外科学分野教授の外木守雄先生、医療法人愛仁会太田総合病院記念研究所附属診療所太田睡眠科学センター・睡眠外科センター口腔外科主任の有坂岳大先生がそれぞれ講演された。

受講者 144名

- 11月 1日 北関東在宅医療推進フォーラムが県医師会にて開催され、2つの特別講演、シンポジウム、ディスカッションが行われた。

参加者 14名

- 11月 1日 第4回学術委員会を開催。CAD/CAMシンポジウム、栃木県歯科医学会、今年度の歯科医学会、HIV医療講習会、がん医科歯科連携講習会について協議を行った。

出席者 岡崎学術部長ほか11名

- 11月 3日 第68回栃木県歯科医学会が栃木県歯科医師会館にて開催される。本県より安藤和成氏が研究発表の講演を行った。

出席者 岡崎学術部長ほか3名

- 11月 4日 第74回日本公衆衛生学会が長崎市にて開催され、口腔機能検査についてポスター発表を行った。

出席者 北見地域保健委員長

- 11月 5日 第3回学校歯科委員会を開催。基礎研修会、歯と口の健康フェスティバル、マウスガード講習会、茨城県歯科医学会について協議を行った。

出席者 千葉学校歯科部長ほか10名

- 11月 5日 専門学校において推薦入試を実施。歯科衛生士科30名、歯科技工士科4名の受験者があり、同日開催の可否決定委員会にて歯科衛生士科30名、歯科技工士科4名を合格とした。

- 11月 6日 平成27年度ハーモニートップセミナーが県庁舎にて開催された。

出席者 黒澤副会長

- 11月 7日 第36回全国歯科保健大会が甲府市コラーニー文化ホールにて開催。大会テーマは「甲斐の国から“生きる生き甲斐支える口腔保健”～健康に老いるための歯科の役割～」。特別講演「健康に老いること」、シンポジウム「健康に老いるための歯科の役割」が行われた。なお席上、日歯会長表彰を村居幸夫氏（水戸市）が受けられた。

出席者 森永会長ほか1名

- 11月 7日 第2回医療管理委員会を日立市内にて開催。次回スタッフセミナー、県民歯科保健大会健康フェスティバルについて協議を行った。

出席者 大字部長ほか10名

- 11月 8日 スタッフセミナーを日立市内にて開催。「接遇マナー・意識向上」について元日本航空客室乗員訓練部教官・政府専用機初代担任教官 小原孝子先生が講義された。

受講者 26名

- 11月 9日 茨城県病院歯科医会と本会との間で災害時の歯科医療救護についての協定を締結し、その調印式を行った。
出席者 森永会長ほか3名
- 11月11日 都道府県歯科医師会専務理事連絡協議会が日歯会館にて開催され、時局問題について協議を行った。
出席者 征矢専務
- 11月11日 第7回社会保険正副委員長会議を開催。第7回委員会、指導、理事会報告、審査内容について協議を行った。
出席者 榊社会保険部長ほか2名
- 11月11日 第7回社会保険委員会を開催。「保険請求のQ&A」改定について協議を行った。
出席者 榊社会保険部長ほか20名
- 11月11日 県学校保健会長ほう賞選考委員会が県メディカルセンターにて開催され、平成27年度茨城県学校保健会長ほう賞受賞者の選考について協議を行った。
出席者 森永会長ほか1名
- 11月12日 保険医療機関に対する集团的個別指導が県開発公社にて実施された。
対象医療機関数 54
- 11月13日 各分野において県勢発展に著しい功績があった方々を称える「茨城県表彰」の表彰式が茨城県庁にて執り行われた。
出席者 森永会長
- 11月13日 労働保険制度事業主説明会がホテルレイクビュー水戸にて開催された。
出席者 須能
- 11月13日 四師会地域包括ケアワーキンググループ第2回会議が県医師会にて開催され、ITの活用による多職種連携を含めた地域包括ケアの構築について協議が行われた。
出席者 黒澤副会長ほか2名
- 11月14日 第3回介護保険委員会を大子町にて開催。介護保険講習会について協議を行った。
出席者 小野寺介護保険部長ほか5名
- 11月15日 第24回茨城県民歯科保健大会を開催。高齢者よい歯のコンクール、親と子のよい歯のコンクール、茨城県歯科保健賞、歯と口の健康に関するポスターコンクールの表彰を行った。
午後からは「歯と口の健康フェスティバル」を開催。各委員会、専門学校、口腔センターの協力の下に、パネル展示、茨城歯科専門学校オープンキャンパスなどの各種イベントを実施した。
来場者 734名
- 11月15日 介護保険講習会を大子町にて開催。「認知症の人の口腔ケアと食支援」をテーマに東京都健康長寿医療センター研究所社会科学系専門副部長の平野浩彦氏、同センター研究所福祉とケア研究チーム ジネスト・マレスコッティ研究所インストラクターの伊東美緒氏がそれぞれ講演された。
受講者 121名

- 11月16日 橋本知事を激励するための平成27年度昌峯会総会が水戸プラザホテルにて開催された。
出席者 森永会長
- 11月17日 第2回茨城県食育推進計画（第3次）策定委員会が県立健康プラザ大会議室にて開催され、茨城県食育推進計画（第三次）について協議が行われた。
出席者 藤田
- 11月17日 第2回G7茨城・つくば科学技術大臣会合推進協議会がつくば市にて開催され、事業計画案ほかについて協議が行われた。
出席者 鈴木事務局長
- 11月17日 第3回関東地区歯科医師会会長会議がアルカディア市ヶ谷にて開催され、日歯次期会長予備選挙について協議が行われた。
出席者 森永会長
- 11月18日 保険医療機関に対する個別指導が厚生局茨城事務所にて実施された。
対象医療機関数 3

電話相談のお知らせ

現在、茨城県歯科医師会では会員の方々の様々な疑問、問題に対処できるよう以下の4名の専門家と顧問契約を結んでおります。

顧問弁護士	大和田一雄氏	法律相談全般
	飯島章弘氏	医療事故に関すること
医療アドバイザー	古川 章氏	保険請求や各種届出などに関すること
社会保険労務士	皆川雅彦氏	従業員との労働契約、労務関連など

相談したい事柄がございましたら、お気軽に茨歯会事務局まで電話、またはFAXにてご連絡ください。各先生との相談の日程などの調整、あるいは後日回答できるように致します。ただし、相談は無料ですが、その後は個別対応となります。



茨城県歯科医師会事務局
電話 029-252-2561
FAX 029-253-1075



第68回栃木県歯科医学会に参加して

学術委員会 上野 卓也

去る11月3日に宇都宮市の栃木県歯科医師会館にて開催されました、第68回栃木県歯科医学会に、茨城県歯科医師会学術担当理事の岡崎恵一郎先生、学術委員長の今湊良証先生、学術委員の安藤和成先生、学術委員の上野の4名にて参加してきました。これは、茨城県歯科医師会と栃木県歯科医師会との交流事業の一環であり、茨城県歯科医学会においても栃木県歯科医師会の先生方のご参加をいただいております。以下に、当日の模様と印象についてご報告申し上げます。

開催日の天候は良かったのですが、行きの北関東道は霧に包まれておりました。宇都宮到着後にすぐに気付いたのは、明らかに水戸より寒いということです。風邪に用心しながら会場に向かいました。



栃木県歯科医師会館は、あの野球の名門、作新学院のお隣に立地しております。茨城県歯科医師会館よりは小ぶりの作りではありますが、その分駐車スペースは十分に確保されており、いきな

りの好印象であります。（外来者にとっては大事な点です）受付を済ますと、プログラムを頂戴します。実に読みやすいプログラムです。老眼の始まった私にはうれしい。

開会式は8時45分から。10時開催に慣れている自分としては、ずいぶん早いとは思いましたが、みなさん滞りなく集まっておられて、9時からすんなりと口演が始まりました。

演題は自治医科大学口腔外科と獨協医科大学口腔外科からのものが多く、一般会員からのものが少ない印象を受けました。ただ、これは茨城県歯科医学会においても共通の課題ではあります。大学口腔外科の新人の発表練習の場になっているのでは？との危惧であります。一般会員の参加と発表をいかに増やしていくかは、いずこの歯科医師会学術担当の者にとっても悩ましいところなのだ、と改めて納得した次第。

栃木県歯科医学会は、会場が歯科医師会館ということもあってか、茨城県歯科医学会と比べてずいぶんとコンパクトな印象です。茨城県の様に県内有数のホテルを貸し切りにして、一般向けの公開講座も開催する一大イベントとはだいぶ趣が違ふことは確かです。しかし、栃木県歯科医師会の先生方の手作り感、情熱がダイレクトに外来者の私にも伝わって来て、正直に申し上げて、あ、こういうやり方も悪くないな、かえって締まった良い学会だなと思った事は事実であります。

若輩者の私には伺い知れないことではありますが、茨城県歯科医学会が立ち上がったばかりの頃はきっとこんな感じじゃなかっただろうかと想像させられました。現在の茨城県歯科医学会は千名以上の来場者数を誇る盛大なものでありますが、会場・ブースが分散しており、実行部隊の一員である私も戸惑うことがあります。栃木県のようなコンパクトなパンチのある運営は、今後の茨城県歯科医学会の企画運営にあたっての参考にさせていただきたいと存じます。



さて、午前の口演の最後は、当学術委員の安藤和成先生による発表でした。演目は、歯肉退縮症例において根面被覆術を行うことなく、根面のフラット化によって改善をさせた症例報告であります。日常良く遭遇し、また患者からの問い合わせも多いケースであります。おおがかりな外科的なアプローチをすることなく、歯肉退縮を改善させる。我々臨床医にとっては非常に興味深い発表であり、会場からの質問も活発にあり、口演終了後にも安藤先生のもとに質問者が集まり、多数の名刺交換の列が出来ていました。

午後からの特別講演は茨城県土浦市でご開業、日本顎咬合学会理事長の上濱正先生による「咬

合・咀嚼革命」でありました。講演が始まるや、熱い語り口で速射砲のように繰り出されるその内容には、ただただ圧倒されるばかりでありました。歯科だけにとどまるのではなく、大脳生理学、免疫学にも渡った膨大な知見をご自身のものにされて、日々の臨床において実行されていること。また今後の歯科医療の在り方や日本の国の在り方にまでお話が及びましたが、全くもって大風呂敷を広げているようには感じず、ずっと頭の中に入ってきました。それは、想像を超えるような多量のエビデンス文献を読みこんだうえでのご発言だからだと推察されます。今後はあらゆる医療のベースを歯科医療が担う旨のご発言を聞いた時には勇気がわきました。しががない中年歯科医の心に火を付けてくださった上濱先生には感謝申し上げます。



4時半にすべてのプログラムが終了し閉会となりました。懇親会が市内のホテルにて行われ、学術委員長は今湊良証先生が出席されました。

最後に、貴重な機会を与えてくださいました栃木県歯科医師会の先生方並びに職員の方々に、厚くお礼を申し上げます。

第74回日本公衆衛生学会に参加して

地域保健委員会 北見 英理

平成27年（2015年）11月4日（水）～6日（金）にかけて、長崎県長崎市において第74回日本公衆衛生学会総会が開催され、地域保健委員会の北見が参加しましたので報告いたします。

総会のメインテーマは、「ライフステージに合わせた健康づくりを目指して」でした。

青柳潔学会長（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科公衆衛生学教授）は、「少子高齢化が進むわが国にとって、子供から高齢者までのすべての世代における健康増進を進めていくことが重要です。母子保健、学校保健、壮年期からの生活習慣病対策、高齢者における介護制度等、ライフステージを考慮した公衆衛生学の実践が必要とされています。壮年期死亡の減少、健康寿命の延伸と生活の質の向上を目的とし、21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）が平成12年度に開始されました。平成25年度からは健康日本21（第2次）が進められ、あらゆる世代の健やかな暮らしを支える良好な社会環境を構築することにより、健康格差の縮小を目指すこととなりました。また、高齢者の健康に関して、運動器の障害によって移動機能の低下をきたした状態であるロコモティブシンドロームの認知向上が目標となりました。乳幼児期から高齢期まで、それぞれのライフステージにおいて、心身機能の維持・向上につなげる対策について議論して頂きたい」と述べられました。

内容は、特別プログラム52、一般演題（示説）

1466、自由集会51、ランチョンセミナー8の登録がありました。

地域保健委員会では、平成21年の第68回から7年連続で参加し、一般演題（示説）「新しい歯科健診“口腔機能健康測定”」について発表を行っています。今年度は、演題名を「茨城県A市における口腔機能健康測定実施状況に関する報告」とし、下記のような抄録を作りました。

【共同演者】北見英理¹⁾ 戒田敏之¹⁾ 福田雅臣²⁾

【所属】茨城県歯科医師会¹⁾ 日本歯科大学生命歯学部衛生学講座²⁾

【目的】茨城県歯科医師会では、平成20年より従来型歯科健診法に代わる口腔機能検査を加えた受診者参加型の新しい歯科健診「口腔機能健康測定」を考案し、県内の市町村および事業所などで実施しています。特にA市では、平成21年から26年まで（22年のみアンケート調査未実施）継続して口腔機能健康測定を行っています。そこで今回、過去5年の口腔機能健康測定実施およびアンケート調査結果状況の概要について解析したので報告いたします。

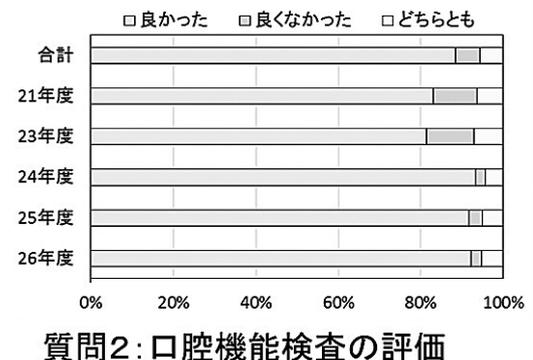
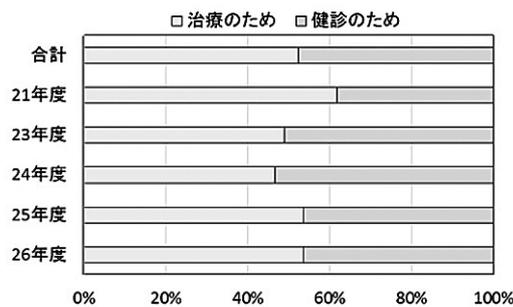
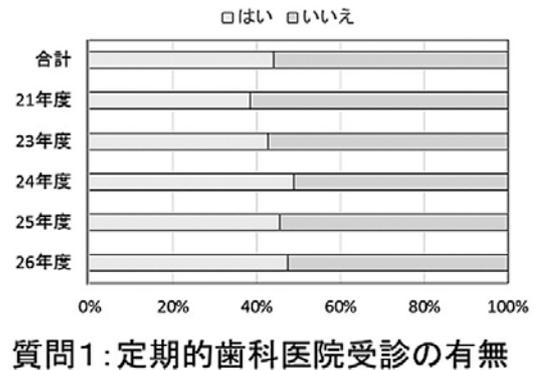
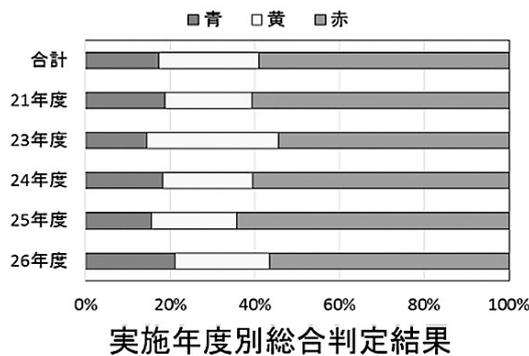
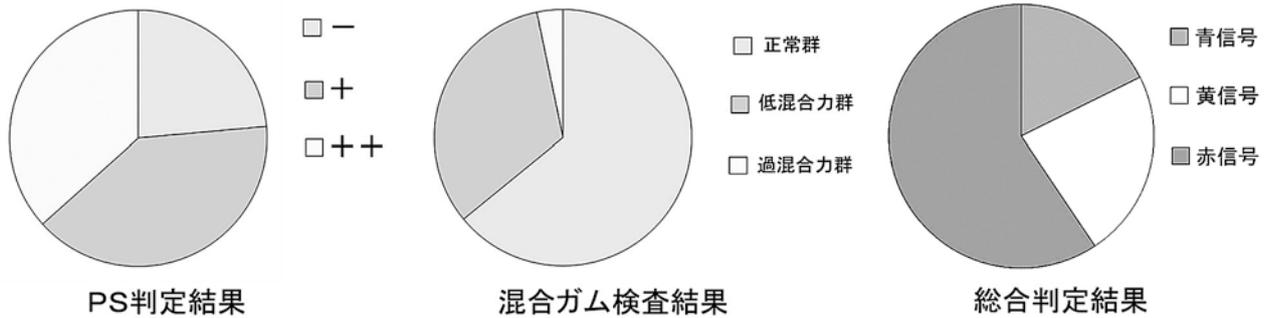
【対象と方法】対象の年齢は40～70歳台で、受診数および性別はH21年：160名、H23年：158名、H24年：180名、H25年：160名、H26年：152名、計810名（男性160名、女性650名）です。口腔機能健康測定は口腔診査を行わず、唾液潜血試験（ペリオスクリーン：PS）と混合力検査ガムによる口腔機能検査（混合力検査）およ

び混合力検査前後の口腔内状況と生活習慣に関する問診で構成されたものです。PSは－・＋・＋＋の3段階で評価し、混合力検査は赤と青の粒ガムを各1個口腔内に入れ30回と60回咀嚼させ、各回数での混合状態をA：原色が残る、B：点状に残る、C：一様に紫色の3段階で判定し、咀嚼回数と混合状態の組合せで“低混合力群”“正常群”“過混合力群”3群に区分した。これらの結果から総合判定を青信号：PS（－）正常群、黄信号：PS（＋）正常群、赤信号：青黄以外の3段階に層化しました。また、受診者には口腔機能健康測定後アンケートを実施し、健診方法について「良かった・良く

なかった・どちらともいえない」の3段階で、歯科医師、歯科衛生士による保健指導の満足度については1点から5点で評価してもらいました。

【考察】口腔機能健康測定は、「良かった」と回答した者が各年度で9割を占めました。保健指導については、歯科医師・歯科衛生士ともに4点、5点の評価が各年度で9割前後でした。したがって、本歯科健診プログラムの評価は概ね良好であり、事業所や市町村の口腔保健活動に有効活用できる手段のひとつであることがアンケート調査からも確認できました。また少人数ではありましたが、受診者からの意見・

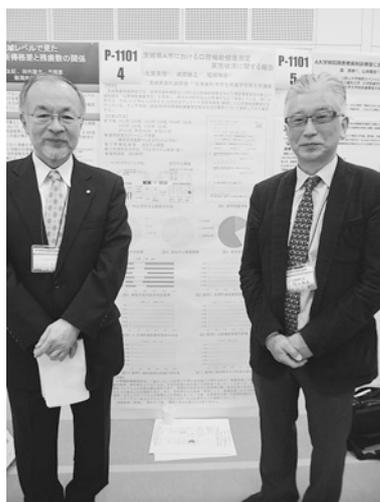
【結果】



感想として、保健指導における時間の長短、コミュニケーションの差異などの指摘もありました。今後、本事業担当者への保健指導およびコミュニケーション能力のスキルアップおよび均一化の必要性などの課題も分かりました。

今年の学会では、東京歯科大学歯科社会保障学教授・上條英之先生、日本大学歯学部医療人間科

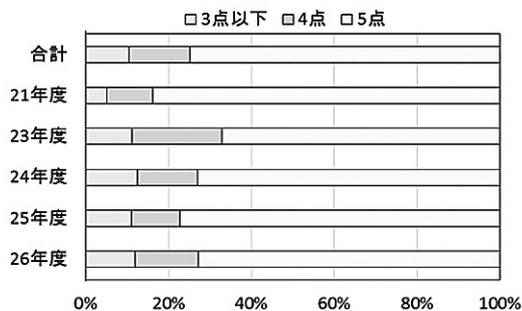
学教授・尾崎哲則先生、国立保健医療科学院地域医療システム研究分野統括研究官・安藤雄一先生、国立保健医療科学院国際協力研究部長・三浦宏子先生、滋賀県健康医療福祉部健康医療課主席参事健康長寿対策室長（兼）口腔保健支援センター長・井下英二先生と、名刺交換をし交流してきました。



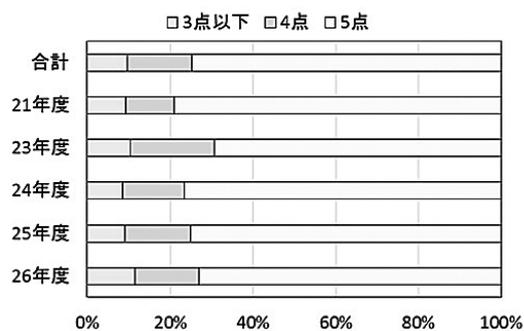
共同演者の福田雅臣教授とポスターの前で記念撮影



会場入口にて



質問3: 歯科医師の指導の満足度



質問4: 歯科衛生士の指導の満足度

アンケートにご協力ください

※ あてはまるものに○をつけてください



性別： 男 女

年代： 40歳 50歳 60歳 70歳

1、あなたは定期的（年1回以上）に歯科医院を受診していますか
はい（治療のため・検診のため） いいえ

2、口腔機能検査（唾液・ガム検査）を受診してみたいかでしたが

良かった 良くなかった どちらでもない

3、歯科医師の個別指導の満足度は5点満点のうち何点ですか
点数に○をつけてください

1 2 3 4 5 (理由も教えてください)

4、歯科衛生士の個別指導の満足度は5点満点のうち何点ですか
点数に○をつけてください

1 2 3 4 5 (理由も教えてください)

5、今日の感想や要望等をご自由にお書きください

() (理由も教えてください)



ご協力ありがとうございました。
今回の検診を機会に、歯科医による定期検診を習慣にしましょう。
〇〇市健康づくり推進課

使用したアンケート用紙

医療+管理委員会 だより

平成27年度 日歯認定歯科助手講習会閉講式

医療管理委員会 印南 亮一

平成27年度医療管理委員会の事業の一環として行われている日歯認定歯科助手講習会は、平成27年5月28日（木）の開講式に始まり同年10月29日（木）までのおよそ5ヶ月間、9回にわたり行われました。10月29日の最終講義終了後、16時から茨歯会館3階講堂にて受講生57名の閉講式が厳粛な雰囲気の中執り行われました。



閉講式は初見委員長の司会進行のもと、まず茨城県歯科医師会会長の森永和男先生より「この場で学んだ事を、皆さんに縁のある地域や自院で存分に発揮してくれる事を期待しています。」との祝辞をいただきました。続いて大字崇弘医療管理部長からは「このような場を与えてくださった自院の院長に感謝しましょう。」との挨拶がありました。

その後57名の受講生全員に認定証が手渡されると、皆、充実感と達成感が入り混じった表情となり、全日程及び全課程を終了した受講生を見守っていた医療管理委員達もホッと安堵感を覚えたのであります。

受講生達はこの5ヶ月間、毎回真剣に講義を受講し実習に取り組み、乙種第一歯科助手と認定されました。これから各医院に戻り仕事に従事する

受講生達にとって、この講習会で会得した知識や技術が少しでも役立てられれば、我々医療管理委員にとってもこの上ない喜びであります。

また、この講習会は日歯を主管とする事業ですが、実際の企画・運営は県歯に任されており、医療管理委員をはじめ外部講師や技工士科・衛生士科の諸先生方の協力のもと成し得たものであります。

最後になりますが、遠方よりお越しいただいた講師の先生方、技工士科・衛生士科の先生方、煩雑な事務作業を担当していただいた茨歯会事務局の方々、そして快くスタッフを送り出してくださった各医院の先生方、皆様に感謝を申し上げてご報告とさせていただきます。



日歯認定助手講習会の感想

3番 高田 真緒

この講習を通じて沢山のことを学ぶ事ができました。

最初の歯科助手の心得とマナーでは、中村八恵子先生の楽しい話を聞き、あいさつや返事の大切さを改めて感じる事ができ、私自身毎日のあいさつや返事を見直せました。

日頃なにげなく行っている消毒や滅菌も、目的や重要性を学ぶことができたのと同時に感染症の危険性も分かりました。私も一度、注射針で指を刺してしまったことがあるので注射針を使用する際には、十分に注意し落ちついて取り扱おうと思っていました。

歯口清掃実習では、ローリング法、バス法、スクラビング法を実際に行い、それぞれのブラッシング法を比較して、染め出しを行いプラークの除去効果などの違いを詳しく調べました。機会がないと染め出しを使用して時間をかけてブラッシングすることもないので、自分の磨けていない部分をよく知ることができました。磨けていると思っても実際にはブラシの毛先にも当たっていなかったり、届いていない部分があったので、歯ブラシだけではなく、デンタルフロスや歯間ブラシ、糸ようじ等も使っていこうと思います。

プラーク観察実習では、肉眼では見る事の出来ないプラークの実態を、位相差顕微鏡で観察し、スケッチをしました。

自分の口の中にこんなに細菌がいるなんて思いもしませんでした。観察して、もっと今までよりも丁寧に時間をかけて磨いていかなければならな

いと感じました。

歯科技工士の仕事についても知ることができました。私の勤めている歯医者では、技工所に頼んでいるので製作についてあまり理解することができませんでした。この講習を通じて詳しく学ぶことができて良かったです。

石膏注入やシリコーン印象材の講習では、普段の仕事でも行っているのでスムーズに行うことができました。

救急処置では、AEDの使い方、心臓マッサージ、人工呼吸を学びました。

自動車の免許を取得した時や高校の授業の時に教わって以来だったので久々に行いました。定期的に行っていないと、とっさに行うことはできないのでこの講習で教わったことを忘れない様にもらったプリントや手の感覚を思い出して、いざという時に役立てるようにしたいと思います。

約半年間、日歯認定歯科助手講習会を通して学んだことは、これからの私の歯科助手の仕事にとっても役立つと思います。

一回一回の講習で学んだことを無駄にしない様に、プリントや教科書等も時間がある時は見直していこうと思います。

この助手講習会に参加できて、私自身とてもプラスになり、勉強になりました。

講習会で学んだことを活かしてこれからの歯科助手としての仕事を頑張っていこうと思います。ありがとうございました。

日歯認定歯科助手講習会を終えて

25番 澤井 香那

平成27年5月28日から10月29日の内、9日間という短い期間でしたが歯科助手講習会に参加できてとても良かったです。私の21歳の誕生日から始まったこの講習会はあっという間でした。知らない人が沢山いる中に入っていくのは、とても不安でしたが中村八恵子先生の講習で一気に緊張感が和らぎました。自己紹介の時バースデーソングを皆さんに歌っていただいたことは一生の思い出になりました。お友達もでき、毎回楽しみながら学ばせて頂きました。

私は医療事務の資格は取得いたしましたが、歯科については全く分からなく初めはとても大変で、勤め先の医院に迷惑をかけてしまっていました。私の業務はほぼ受付と会計ですが、治療の流れを理解していないとパソコン入力や患者さんに説明もできませんでした。今では、約1年という勤務期間やこの講習会のおかげで少しずつ出来るようになりました。まだまだ求められている事は沢山ありますので、これからも自分の中のキャパシティを広げていきたいです。

治療の流れや器具それぞれの使い道、消毒・滅菌の必要性、麻酔についてなどさらに理解が深まりました。そして、特に印象に残ったことがいくつかあります。まず、子供に与えるおやつについてです。柔らかく歯にくっついてしまい噛まなくても食べられてしまうものばかりではなく、煎餅のような硬いものを与えると虫歯にもなりにくい

し、丈夫になると学びました。これは自分が子供を育てる時や患者さんへのアドバイスに役に立つなと思ったので、機会があれば言ってみようと思います。二つめは歯並びについてです。小さい頃から常に口が開いている子供は歯が前に出てきてしまったり、飲み込む時に力が必要になってきてしまうそうです。患者さんが来院した時から意識してチェックするようにしようと思います。最後に、口腔内が汚い場合からなってしまう病についてです。例えば、肺炎や糖尿病、肥満、動脈硬化、心筋梗塞など、又は女性に関係する早産や低体重時出産になってしまう可能性があるということです。病気と口腔内が関係性を持っていたことを、全く知らなかったのが衝撃を受けました。東日本大震災の時、歯を磨けなかった人が肺炎になってしまったという例があるそうです。なので三ヶ月に一度の定期検診が必要なのだとわかりました。

歯科助手は衛生士さんより仕事内容は限られてしまっていますが、やれることは沢山あり縁の下の力持ちのような存在だと思いました。如何に歯科医師や衛生士さんがやりやすいように行動できるか考えて行おうと思います。

歯科医師会の皆様やお休みの日をけずって講習をしていただいた先生方、又はこのような機会を与えてくださった院長にもとても感謝しています。ありがとうございました。

第79回 全国学校歯科保健研究大会報告

学校歯科委員会 海老原 一芳

10月29日、30日の2日間、長野県長野市のホクト文化ホールにて「生きる力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指してというメインテーマのもと第79回全国学校歯科保健研究大会が開催されました。

県歯学校歯科担当理事の千葉先生と出席いたしましたので御報告致します。



29日（木）午後1時から日本学校歯科医会会長の清水恵太先生をはじめ実行委員会会長の春日司郎先生などのご挨拶、その後、第54回全日本学校歯科保健優良校の表彰が行われました。ちなみに塩崎厚生労働大臣のご祝辞は大臣欠席のため、厚生労働省医政局歯科保健課課長 鳥山佳則様が代読いたしました。

春日先生からは「大会運営に関して今回主催から文部科学省が降りたためいつもとは少し違いかもかもしれません。」との言葉がありましたが、以降のプログラムは滞りなく実行されました。

茨城県では、奨励賞に、常陸大宮市立緒川小学

校、銚田市立当間小学校、結城市立絹川小学校、北茨城市立中郷中学校、の4校が選ばれました。

その後、国立モンゴル医科大学歯学部 客員教授 岡崎好秀先生の基調講演「生涯を通じて自らの健康を保持増進するための学校歯科保健のあり方」がありました。

講演は、貧困と虫歯、虐待、少年院での虫歯の話から始まりました。子どもに対する無関心が子どもの虫歯を作るという話でした。その話の中に、福岡の先生の例で、荒れている学校に赴任しては立ち直らせるという先生の話がありました。その先生の方法が次のようなものです。荒れている小学校では給食での残飯率が高いことが多いのですが、給食で無理に嫌いなものなどを食べさせるのではなく、給食での残飯を肥料として野菜を育て、その野菜をみんなで食べるようにします。すると残飯が少なくなります。また家ではなるべく家族一緒に食事するようにさせて、その時にとれた野菜の話題や学校の出来事を家族に話すことで家庭内の会話も増えるようになり、その結果、家庭も学校も良い方向に立ち直っていくそうです。

他には、食事の時の飲み物で食べ物の流し込みをすると唾液の量が減るのではないかという話が出ました。ある小学校では、学校給食で最初に一口牛乳を飲んだら食べ終わるまで牛乳は飲まないようにすることによって、食べ物をよく噛むことになり、噛む回数も増え唾液の量も増えたとのこ

とです。また、前歯部の叢生と口呼吸、俗に言う“お口ぽかーん”の状況に関しての話では、子どものために食材を小さく切ってしまうことが問題とのことでした。これは、前歯で噛みちぎることが重要です。「捕食と咀嚼はちがう」のです。前歯で噛みちぎることによって、①大きな口を開ける②前歯を使う③口唇や顔面表情筋が発達する④舌がよく動く⑤噛む筋肉が発達する⑥唾液がよく出る、ということにつながるそうです。

それらをはじめ話題は多岐にわたり、あっという間の80分でした。

午後4時からは養護教諭の先生方から学校保健委員会などに関するシンポジウムが行われ、以下の4題が発表されました。

1. 「健康長寿 長野」の実現に向けた学校歯科保健の取り組み

長野県教育委員会事務局 保健厚生課
課長 宮下朋子先生

長野県の学校歯科保健の現状の説明がありました。虫歯の処置状況は10年前から比較するといずれの校種でも改善され、12歳児のDMFT指数は0.8本となり全国平均も下回っています。長野県は県民運動の「信州ACEプロジェクト」推進に力を入れています。(ACEは体を動かし(Action) 検診を受け(Check) 健康に食べ(Eat) 県民の健康増進、健康長寿を目指す思いを込めた名称です。) 学校、家庭、地域の連携をとり、学校歯科保健の水準向上に努めていきたいとのことでした。

2. 学校保健委員会と養護教諭 チェンジ! チャンス! チャレンジ!

東京都中央区立久松小学校
養護教諭 上野弘子先生

養護教諭の先生も学校保健委員会は内容のマンネリ化、資料作りなどの手間、などのために開催が大変だと感じる先生が多いようです。そのた

め、年1回開催にすると年数回の開催に比べ準備などに気合が入りすぎ、課題も絞り切れず、かなり大変な思いをすることでした。最初赴任した学校では学校保健委員会を学期ごとの3回開催することになっており、最初は大変なことだと考えてたようですが、実際実施してみると回数が多いのでテーマを絞りやすくなり、反省点、問題点も次回の学校保健委員会に反映しやすくなったそうです。また、次に赴任した学校では毎回の学校保健委員会に学校医・学校歯科医・学校薬剤師の先生方が全員出席したことで、保護者と学校医・学校歯科医の先生方をつなぐ大きな力になったそうです。現在の赴任先の学校では、委員会で小グループ(3人程度)での話し合いを取り入れ意見交換などが活発に行われるようになったそうです。今後も学校保健委員会を発展させていきたいとのことでした。

3. 学校経営に位置付く学校保健委員会

～ヘルスプロモーションの考え方に立った取り組みに～

東京都中央区立泰明小学校 元校長
東京都中央区立泰明幼稚園 元園長
小暮義弘先生

小暮先生は、児童生徒の「自律的健康づくり(ヘルスプロモーション)」を促進させるためには、学校歯科保健活動などを通じ個人のスキルアップを図り、QOLを高めていくようにするのが重要である、それが個々の豊かな成長を促すことになるという考え方です。

教育の本質とも言える「知育」「徳育」「体育」の調和のとれた教育を行うことが重要で、そのために、①学ぶ力②豊かな心③健やかな心と体、この3つの育成を一体のものと考えバランスのとれた教育を行うことが必要とのことでした。これには、一部の先生方だけではなく、全教職員の共通理解と一体になった指導体制で取り組むこと

で成果が上がります。また、学校だけでなく、保護者、地域の協力・連携・支援も不可欠とのことでした。

以上のことによって、学校保健委員会などを活用し、家庭や地域社会に「開かれた学校」を推進することが大事とのことでした。

4. 健康な生活を保持増進するための学校保健委員会の取り組み ～学校保健委員会における学校歯科医の役割

高知県高知市立西部中学校 学校歯科医
一般社団法人 日本学校歯科医会
理事 野村圭介先生

学校保健委員会における学校歯科医の役割は①学校保健計画・健康診断・委員会の年間計画の策定に参画し、指導助言する。②地域と学校を結ぶ窓口として、医療機関や歯科医師会、学校歯科医会との連絡調整をはかる。③専門的な立場から指導、助言を行う。などがあり、日頃の窓口である養護教諭と緊密な連携をとり、養護教諭のコーディネーターとしての役割を支援すべきとのことでした。

地域学校保健委員会の役割は、①各学校の健康課題を検討することによって、地域の健康課題を明らかにする。②広い視野で情報交換することにより、地域の子どもの健康課題の解決や、学校における健康づくりの活性化や実践力の向上を図る。③学校保健関係機関や団体と地域連携を強化し、地域全体の健康づくりを視野に入れた実践活動を展開する。などですが、その地域の特性を踏まえた取り組みを実施することが重要とのことでした。

実際には、西部中学校では、学校保健目標に沿った形で歯科保健活動を展開するために、独自の生活問診指導票を作成し活用していました。それは、「健康チェックリスト、それに対する指導文」という形で選択肢毎の指導が可能になってい

るそうです。それを、検診や保護者面談の資料として活用しているそうです。また、学校保健委員会での資料としても活用し、学校の教職員全体で、「歯・口の健康づくり」に取り組める体制としているそうです。

以上のような講演があり、その後懇親会にて1日目が終わりました。

翌30日は午前9時から領域別研究協議会が、保育所・幼稚園部会、小学校部会、中学校部会、高等学校部会、特別支援教育部会に分かれて行われました。私が出席した小学校部会、高等学校部会についてご報告します。

小学校部会では、長野県駒ヶ根市立赤穂南小学校 養護教諭 竹上好美先生 学校歯科医 菅沼香先生から「自分の健康に関心を持ち、進んで健康的な生活を送ろうとする子どもの育成」、また栃木県宇都宮市立陽南小学校 校長 矢田部芳仁先生 養護教諭 松本京子先生からは「自ら歯・口を大切に作る児童の育成」という研究発表がありました。

赤穂南小学校は、児童数470名 21学級の学校です。20年ほど前はDMFT指数が2.2本でしたが、最近ではほぼ1.0本 本年度は0.7本にまで減少しました。その取り組みを紹介していました。まず、学校目標「歯と口の健康づくり」の推進を全職員に提案し共通理解を図り、「ピカピカチェック」という養護教諭が児童一人ひとりに口頭での歯や歯磨きのチェックをすることを継続し、チェックカードを使って家庭との連携を行うようにしています。PTA活動としては給食センター見学をして栄養教諭の講話を聞いたり、「歯によいおやつ」をつくり、そのレシピなどをPTA会員に配布するなどの活動をしています。学校歯科医としては歯科検診を年2回実施・全校児童への講話の実施・毎年3月に5年生に「8020推進員認定式」を行い、月に2、3回は各教室で児童と一緒に給食を食べるそうです。給食の際には給食指導と食後の

歯みがき指導、むし歯の早期治療についての個別指導をするそうです。担任・養護教諭・学校歯科医・歯科衛生士によるTTの授業を実施し、児童が自分の歯や口に関心を持ちながら、継続した健康づくりをしていけるような指導を発達段階に応じて進めているそうです。学校の先生方の異動の際にも申し送りを十分に行って現状を維持しているようです。

陽南小学校は、児童数505名 特別支援学級2学級を含む計18学級の学校です。教育目標を「心身ともに健康で創造性に富み、心豊かで実践力のある児童の育成」として掲げ、知・徳・体のバランスのとれた児童を育成することを目指しているそうです。陽南小学校は、定期歯科健診の分析やアンケート等による児童の健康行動の把握により、歯科保健の課題や問題点を明確化しています。それを職員間で共有し、活動内容の重点化や計画の一部見直しを行い、活動の効果的な推進につなげています。学校歯科医による健康相談の実施、毎日の給食後の歯みがきタイム、体育科（保健領域）における歯と口の健康に係る学習、学校歯科医による健康講話、養護教諭による保健指導、などを行っています。特に特徴的なのは、児童による健康出前講座でした。児童が児童に教えるという活動を通して、教える側も教わる側も「歯・口の健康に関する意識や実践意欲を深める」という効果が見られているそうです。それらの結果、DMFT指数が減少し、健全歯をもつ児童の割合が増加、未処置者が減少し、永久歯については、未処置者はいなくなったそうです。担任の先生の協力と養護教諭の指導が大変そうですが、かなりの成果が上がっていました。

高等学校部会では、長野県望月高等学校の養護教諭 小森江利子先生から、「地域連携型健康教育」を指向した保健委員会活動 ～元気百倍！！望月レンジャー～」、東京都立足立東高等学校の主幹教諭 西川路由紀子先生から、「生活習慣病

予防を目指した歯と口の健康づくり ～12年間の成果 健康教育で学校が変わる～」という研究発表がありました。

望月高等学校は、不登校や特別支援を要する生徒が多数在籍する全生徒数165名の小規模校であり、地域と連携した健康教育の取り組みについて発表がありました。過去3年間のGOおよびGの割合は、27%から40%と県平均を大きく上回り、歯と口の健康習慣がまだ確立されてはいませんが、「歯と口の健康を含めた基本的生活習慣の確立」を切り口として、地域の専門職への取材で学んだ口腔保健の知識を機会あるごとに発表し、自己実現に寄与しているとのことでした。また、「元気100倍！望月レンジャー」の創作劇の活動では、生徒たちが学んだ歯と口の健康についての知識を地域の幼児たちに劇を通して楽しく伝え、生徒本来の生き生きと活動する姿につなげていました。

東京都立足立東高等学校は、エンカレッジスクールとしてスタートした中途退学者やフリーターの減少を目指した生徒数500名を超える大規模校であり、そこでの12年間の歯科保健活動の発表がありました。具体的には、①学校歯科医・歯科衛生士の個別指導を取り入れた歯科健康診断、②生活習慣アンケートによる生徒の実態把握、③歯科医師・歯科衛生士と連携した健康教室の実施、④歯と口の健康優良生徒の表彰、⑤養護教諭による歯肉炎予防の個別指導、⑥生徒保健委員会の文化祭での発表などでした。12年前、歯みがきはおろか飴やガムを食べながら歯科健康診断を受けていた生徒たちの態度が変わり、健康への意識の向上が見られるようになり、むし歯罹患率が77.6%から18.2%へと改善しました。また学習態度が落ち着き、退学者が減るとともに進路決定率も大きく向上するなど、学校そのものが変わったとのことでした。

両校とも、歯科保健教育だけでなく学校の健康課題を見つけ、その課題解決に向けて養護教諭が

コーディネーターとなり、教職員、学校歯科医、学校医、保護者、保健所等の地域関係者と連携を図りながら継続した指導を実践することが、生徒の心と身体をより良く育成することに繋がるとの総括でした。



2日間で、学校歯科に関して大変勉強になりました。学校歯科保健に携わっている歯科医の先生方には是非この大会に参加して頂ければと思います。



～訂正とお詫び～

10月号掲載の厚生委員会だよりで県歯ゴルフ大会のバスグロの結果に誤りがありましたので、以下のように訂正いたします。

【誤】

バスグロ

- 1位 小野瀬弘記 75
 2位 茶園基史 76
 3位 草野廣幸 76 米川 久 76

【正】

バスグロ

- 1位 平尾 修 (県南) 75
 2位 小野瀬弘記 (県南) 75
 3位 茶園基史 (土浦石岡) 76
 (敬称略)

以上、ご迷惑をおかけいたしました。

口腔センター土浦での半年を振り返って

西山 めい、村居 幸夫、
征矢 亘、森永 和男

今年4月から口腔センター土浦に勤務して半年が経ちます。4月の初出勤の際には桜川の河川敷にいっぱいの桜が咲き、自分を鼓舞してくれているような気持ちになったのを覚えています。

私は日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座に在籍しています。皆さんご存知の通り、障害者歯科学講座を置いている大学は29歯科大学のうち5歯科大学しかありません。そのため歯科医師の中には障害のある方とあまり接したことがないという方も少なくはないかと思います。私が卒業した日本大学松戸歯学部は障害者歯科学講座を日本で初めて開設した大学です。そのため、学生時代には院内実習で障害者の方たちと接する機会がありました。そこでは口の中だけではなく患者さんの障害や医科的既往歴のことはもちろん、家族のことや家庭環境、施設や学校での過ごし方など細かく把握し、その患者さんにあった接し方をしていました。私は他科の実習を幾つか経験した後に障害者歯科の実習を受けたので、他科と比べて障害者歯科の歯科医師が患者さんの心身にとても近く寄り添って診療していることに驚きました。研修医を終えた後にどの道を進もうかと考えた時、その感情がよみがえり障害者歯科学講座への入局を決めました。入局してからも目から鱗がおちるような体験をいくつもしました。

例えば、最初の医療面接では患者さんの家族構成から、生活リズム、好きなこと嫌いなこと、コ

ミュニケーションツールなど事細かく聞いていきます。医療面接では質問事項だけではなく、各場面によって変わる表情や行動を観察し評価を行います。それらは患者さんの性格を知るために重要な事項です。研修医時代にも問診はたくさん行いましたが、それは口腔内の一部、または医科的既往歴などの広い範囲でした。医療面接をしっかりと行うことで私もぐっと患者さんを身近に感じることができました。他に新鮮な体験をしたといえれば、行動調整の成果が目に見えて分かったことです。私が初めて行動調整を行ったのは歯科治療経験のない5歳の知的障害児でした。口腔内にはう蝕が多く、診療室へ入るのに躊躇していたため行動調整を行いながら治療を進めていった症例です。最初は歯ブラシや鏡などから脱感作を行い、ラバーダムやタービン、レストレイナーの練習を行いながらう蝕治療をしていきました。治療の途中から力が抜け始めたのを見計らい、徐々にレストレイナーを外し、今では自分からユニットへと横になり口を開けてくれます。口腔センター土浦でも歯科受診が初めての方、歯科恐怖症の方、近隣の歯科医院からの紹介で来院した方などを見る機会があります。どの患者さんからもよく話を伺い、行動調整を行うことで受診状態が良い方向へと変わっていくのを実感しています。

行動調整もそうですが、口腔の健康を守るためには周囲の協力がとても重要です。口腔センター

土浦へ来て、患者さんのリコール率の高さに驚きました。これは歯科医療者と患者さん、その家族ならびに施設の人達との信頼関係がなければできないことであり、口腔センターが地域に根付いた診療を行えている結果なのだと思います。診療室内では衛生士さんたちもよく患者さんたちと話し、行動を見てくれていると感じます。私が引き継いだ患者さんは知的障害者の方が多く、衛生士さんとTBIを行っている方もいます。しかし、TBIの指導は一部の患者さんにしか行えていないのが現状です。今後は患者さんが持っている能力を最大限に生かし、口から始まる健康へのアプローチをしていけたらと思います。

センターに勤務して半年が経ち、今でも緊張感は取れませんが程よい緊張感は安全のためにも

持っていたいと思います。皆様にはこれからもご助力をいただくことと思いますが、地域医療に貢献できるよう精一杯頑張っていきたいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



会員へのお知らせ

日本歯科医師会福祉共済制度について

1. 死亡共済金受取人順位の変更について

受給権者をあらかじめ指定した方で、結婚、離婚、再婚、死別などにより受給権者の状況に変更があった場合（指定の確認は茨城県歯科医師会までお問い合わせ下さい）。

2. 火災・災害共済指定物件の変更について

住宅及び診療所所在地の変更があった場合（変更届出前に火災、災害に遭われた場合、所定の共済金が支払われないことがありますので、変更時に必ずお届け下さい）。

※ これらの変更については、所定の様式がございますから、茨歯会事務局（TEL 029-252-2561：担当 根本）までご請求願います。

専門学校 の だより

【保護者懇談会】

(歯科衛生士科、歯科技工士科)

10月1日(木)茨城県歯科医師会館会議室において、歯科衛生士科3年生(45名在学)、技工士科2年生(9名在学)の、共に最終学年の保護者の方々にご出席いただき両科合同の懇談会が開催されました。

懇談会に先立ち、各科では、授業参観と個別面談を実施しました。授業参観は、衛生士科6名、技工士科8名、個別面談では、衛生士科8名、技工士科8名の希望がありました。個別面談では担任にご息女、ご子息の学校での様子や就職活動のこと、国家試験について熱心に質問されておりました。

懇談会には、衛生士科20名、技工士科7名の保護者の方々が出席されました。



綱川健一教頭の司会進行により、小鹿典雄学校長の挨拶の後、本校の関係者の紹介がありました。

続いて各科それぞれの教務主任より、最終学年の卒業までの今後の予定や留意事項について次のようなご説明をさせていただきました。

国家試験に関しましては、衛生士科は平成28年3月6日(日)日本大学で、技工士科は初めての全国統一の国家試験が2月28日(日)日本歯科大学で実施される予定となっております。国家試験受験に向けて、学力向上のため両科共その対策授業に力を入れて取り組む一方で、模擬試験を実施し意識も高めていきたいと思っております。そのうち1回は卒業試験となります。

これからは、国家試験受験に向けてなお一層健康管理に気を付けながら、各自が自覚を持って学習に臨んで頂きたいと願っております。

就職に関しましては、両科共に県内の求人票を掲示し、これから職場見学を経て、面接などの採用試験に臨む形となります。個人面談をしながら進めていきたいと思っておりますが、保護者の皆様にもご支援を賜りたいと思っております。

また、保護者の方々お一人ずつの質疑応答の時間では、皆様が真剣に質問されておりました。

最後に学校長から国家試験に向けて、目標を立て良い緊張感を持ってしっかりと勉強してほしい。保護者の皆様には、健康管理と、落ち着いた生活ができるよう支えていただきたい。とのお願いを兼ねた挨拶で、閉会となりました。

今回、ご出席された方々の思いやご意見を直接お伺いすることができました。それに対し、本校として学生のためできる限りのことをさせていただくという強い思いをお伝えすることができましたことは、大変有意義な懇談会であったと思っております。
(文責 山田)

【第3回体験入学】

高校生や社会人を対象に、9月26日（土）に第3回体験入学が開催されました。歯科衛生士科は23名参加で、マネキンのスクーリング、印象材の練和や型とり、細菌観察、染め出しをしてブラッシングを体験してもらいました。



歯科技工士科は4名参加で、石膏の練和や注入、歯の形のカービングなどを体験してもらいました。また、スライドを用いてクラウン・全部床義歯製作の工程を説明しました。

（文責 須藤）



【いばらき専門カレッジリーグ

水戸まちなかフェスティバル参加】

10月25日（日）、水戸市中心市街地において、「水戸まちなかフェスティバル」が開催されました。10月下旬となり、風が少し肌寒く感じましたが昨年を上回る人出と賑わいで、本校も専門カ

レッジリーグとして参加し、教職員5名、歯科技工士科2年生4名、歯科衛生士科11名、計20名で担当しました。

歯科技工士のブースでは、歯ブラシのデコレーション、オリジナルキーホルダー作りを体験して頂きました。



歯科衛生士のブースでは、顕微鏡による細菌検査や歯磨きのポイント指導、咬合力を見るガムを用いた検査を体験して頂きました。



細菌検査では、実際に口腔内の細菌を見ることで、歯磨きの動機付けになればと親子で参加して下さる方が多く、皆さんとコミュニケーションを取りながら、歯磨きの大切さを熱心に説明している学生の様子が見られました。

（文責 鈴木）



講演会報告

「歯科医院では難解だった口腔顔面領域の痛み」 非歯原性歯痛

(社)茨城西南歯科医師会 中村 敦

平成27年7月26日 古河福祉の森会館において、日本大学松戸歯学部・有床義歯補綴学講座の大久保昌和先生をお招きし、茨城西南歯科医師会主催による学術講演会が行われました。先生は日本大学松戸歯学部を卒業後、同大学院を卒業され、日本補綴歯科学会専門医、日本頭痛学会専門医・指導医、日本口腔顔面痛学会専門医・指導医の資格をお持ちになっており、日本大学の専任講師をされています。

第1部では、非歯原性歯痛についてご講演いただきました。

非歯原性歯痛とは、歯や歯周組織に原因が無いにもかかわらず歯痛を発現する疾患であり、歯科医師により抜髄や抜歯など、効果のない不可逆的な治療が行われる事もあります。これらの治療後も疼痛が持続するため、原因不明の疼痛として治療に苦慮する事があります。

非歯原性歯痛の原疾患には、筋・筋膜性歯痛や、神経障害性歯痛（三叉神経痛、帯状疱疹、求心路遮断痛を含む）、神経血管障害、上顎洞性歯痛、心臓性歯痛、精神疾患による歯痛（身体表現性障害、統合失調症、大うつ病性障害など）、特発性歯痛、



その他の様々な疾患による歯痛が有り、歯科は本来治療学であるため、非歯原性歯痛は原因を見つけ難いという事があるそうです。

非歯原性歯痛の発生機序は以下の1～3の様に分類されます。

1. 関連痛：筋・筋膜性歯痛、神経血管性歯痛、心臓性歯痛、上顎洞性歯痛が含まれる。収斂、投射、末梢神経の分岐、軸索反射などで生じる。
2. 神経障害に起因する疼痛：神経障害性歯痛の発生機序である。末梢性は、末梢性感作、神経腫、エファプス伝達、交感神経の関与など、中枢性は、発芽、ワインドアップ、長期増強、中枢性感作、内因性痛覚抑制機構の失調で生じる。
3. 中枢における神経伝達物質などの生化学的変化、情報処理過程の変調による疼痛：神経疾患または心理社会的要因による歯痛や特発性歯痛などの、慢性疼痛の多くが含まれる。

痛みを訴える歯、及び歯周組織に画像所見や客観的審査所見に異常を認めず、歯髄炎や歯周炎の痛みと類似、あるいは打診痛が出現することもあるが、大抵の場合は当該歯への麻酔によっても歯痛が改善しないことで原因が鑑別されます。

非菌原性歯痛の発生頻度はどのくらいあるのかご説明いただきました。

原疾患別による非菌原性歯痛の発生頻度は1～24%であり、原疾患によりその頻度はかなり異なるとの事です。一方、一般歯科患者における非菌原性歯痛の発生頻度は1～6%程度の様です。以下に非菌原性歯痛の統計をまとめます。

筋・筋膜痛患者の11%において非菌原性歯痛を訴えており、咬筋に問題が多かった。

筋・筋膜痛患者121名のうち、関連痛が主訴の患者は54.5%であり、そのうち関連痛部位が歯の患者は49.6%であった。

群発頭痛患者の14%で歯の欠損部の疼痛が観察され、非菌原性歯痛と考えられた。

狭心症経過中に顔面部に疼痛が生じるのは38%であり、1%は歯痛が唯一の症状であった。上顎

洞炎患者の18%に歯痛が観察された。

第2部では、非菌原性歯痛診療についての説明をいただきました。

臨床的に、菌原性歯痛と非菌原性歯痛の臨床的鑑別は以下の様に、自発痛を訴える歯や、歯肉に痛みに見合う病態があるか、各種局所誘発刺激に反応するかを確認することで行うことができます。

- 1) う蝕、根尖病巣など痛みに見合う病態があり、局所誘発刺激に反応する。
→菌原性歯痛の可能性
- 2) う蝕、根尖病巣など歯に病態があるが、局所誘発刺激に反応せず、痛みに見合う原因かどうか確実ではない。
→非菌原性歯痛の可能性
- 3) う蝕、根尖病巣など痛みに見合う病態がなく、局所誘発刺激にも反応しない。
→非菌原性歯痛の可能性

口腔顔面痛患者への臨床的対応は、先ず医療面接による詳細な病歴聴取を行い、

- ・痛みの感覚的評価
- ・痛みの情動的評価
- ・睡眠の評価
- ・心理・社会的評価
- ・生活支障度とQOLの評価

その後、診察・検査を行い、診断となります。

管理上、

- ・内科学的な対応：丁寧な病態の説明、非侵襲的介入
- ・生活指導や行動・認知療法
- ・精神医学的な対応
- ・定期的なフォローアップは必要

そのため、患者さんはそれぞれの専門医の診察を受ける必要があるので大変です。

そこで先生は、日本大学松戸歯学部における口腔顔面痛患者への取り組みとして、口腔顔面痛患者の診断・管理は学際的な診療環境を整えるために、2006年4月に口・顔・頭の痛み外来を開設し、歯科・脳神経外科・耳鼻咽喉科・頭頸部外科・麻酔科・精神科医を配置した連携体制を整えて診療にあたっておられます。

第3部では、左下顎犬歯部の疼痛を主訴に来院した患者さんを例に、臨床診断推論の実習を行いました。

先生の用意した模擬症例に対し、医療面接・構造化問診を行い、下記のようにステップごとのディスカッションを行いました。

ステップ1：SQ

ステップ2：鑑別診断

ステップ3：確認・検査・追加問診、予備診断

ステップ4：鑑別診断の見直し、確定の為の検査

ステップ5：最終診断

あまりの白熱ぶりに、残念ながら詳細は失念してしまいましたが、原因不明の左下顎犬歯部の疼痛に対して、色々な原因を考え、検査を行い、結局は局所麻酔で疼痛が消失した事により、原因は



局所的なものである事が主な手がかりとなって、答えの左下顎犬歯の歯髄炎にたどり着きました。

歯科診療の範囲で特に重要で確実な非菌原性歯痛の鑑別方法は、局所麻酔による痛みの消失の有無であると勉強させていただきました。明日からの診療に役立つとても有意義な講演でありました。

茨城新聞11月18日（水）掲載

歯科コラム Dental column

Vol. **23**

公益社団法人 茨城県歯科医師会

広報委員会 菱沼一弥

歯周病と糖尿病の相互作用

歯周病は、歯肉の溝が病的に深くなった歯周ポケット内で細菌が繁殖して起こる慢性の炎症性疾患ですが、近年の研究により、この歯周病が口腔内のみならず全身の様々な疾患に関連していることが明らかになっていきます。

高齢などによる嚥下機能の低下により、口腔内の細菌が気管に入って起こる誤嚥性肺炎はよく知られてきましたが、心臓の弁などに血栓が形成され起こる感染性心内膜炎という疾患では、その血栓内に口腔内細菌が発見され、歯周病との関連が証明されています。

今回は、さらに密接な関係にある歯周病と糖尿病について解説します。歯周病と糖尿病は、どちらもいわゆる生活習慣病ですが、始めはほとんど症状がなく自己管理で予防することができると多くの共通点があります。

糖尿病は、簡単に言うと血糖値を下げる作用のあるインスリンの量が少ない、あるいは作用の低下により血糖値が高くなる疾患で、初期ではほとんど自覚症状がありませんが、長期にわたると体を守るマクロファージの機能低下、コラーゲン代謝異常、血管の脆弱化、創傷治癒の遅延などにより様々な臓器に重大な障害を及ぼします。糖尿病性腎症、網膜症、神経症が三大合併症と言われ、糖尿病治療ではこれらの合併症をいかに防ぐかということがとても

重要になります。歯周病もこれらの合併症のひとつで、糖尿病があると細菌に感染しやすく、また治癒しにくくなるため歯周病は重症化していきます。

一方、歯周病も糖尿病の進行に関連しています。歯周病菌から出される内毒素が歯肉から血管に入り込み、マクロファージからの腫瘍壊死因子（TNF α ）と言われる物質の産生が促進され、このTNF α がインスリンを作りにくくします（インスリン抵抗性）。したがって、歯周病により糖尿病患者の血糖値はさらに上昇し、そのコントロールが困難になります。

このように歯周病と糖尿病は、お互いに病気の進行に悪影響を与える増悪因子となっていて、この二つが合併している場合、それぞれの治療を並行して効果的に行うことが必要となります。歯周病を治療し定期的な管理により良い状態を維持することで、糖尿病のコントロール状態を表す指標である糖化ヘモグロビン（HbA1c）の改善がみられることが明らかになってきました。

そのためには、歯周病を治療する歯科医師と、糖尿病を治療する医師とが患者さんの状態を把握し情報を共有することが必要で、超高齢化社会を迎え糖尿病に限らず今後ますます医科歯科連携を図っていくことが重要となるでしょう。

●次回掲載予定 2月18日(木)


 公益社団法人 茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

<http://www.ibasikai.or.jp/>

茨城県歯科医師会

検索


 ご意見、ご質問をメールにてお寄せください。
opinion@ibasikai.or.jp

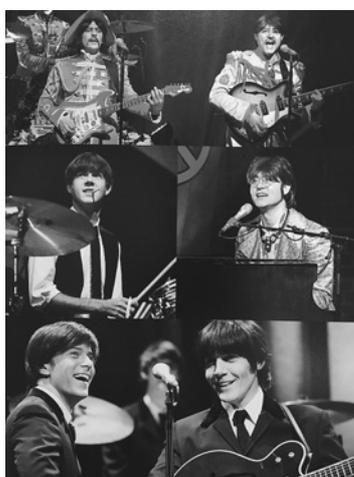


赤えんぴつのネタがない…と考えてた時、某ショッピングサイトから「ザ・ビートルズの再現コンサートショー『LET IT BE～レット・イット・ビー～』が東京国際フォーラムにて開催」とのメール。ビートルズは昔から好きだし、今回は1966年の武道館コンサートのシーンも追加とのこと…



で早速チケット購入、赤えんぴつめ切りでかみさんと行って来ました。良く言えばビートルズの再来、悪く言うとそっくりさんのものまねライブ。ですが、開演前から自分も周り

もちょっとした高揚感。やはり年配の方が多いいいか、途中休憩を挟んで（笑）2時間半、約30曲のライブ。好きなのに予定セットリストに入っていないくて落胆していた『GET BACK』の演奏が始まった時はもう興奮状態。最後はみんなで『Hey Jude』の大合唱。リアルタイムで武道館コンサートに行けた先輩方を羨ましく思っていたが、少しでも生のビートルズ感に浸れて大満足\(^o^)/



また、来日する機会があれば是非行こうと思う。

The Beatles Forever ♪♪

（コバ）

今年も残すところひと月余りとなりました。何となく気ぜわしく感じてしまうこの時期。パリの同時多発テロが発生、しかもパリ中心部の劇場やレストラン、サッカースタジアムなどをほぼ同時に狙った自爆テロや銃乱射事件が発生、130人以上が死亡。負傷者300人以上。2001年の米同時多発テロ以来の大規模なテロ事件。フランスにはテロが起きる土壤があるとの指摘もあるが、日本も標的リストの上位にあるとも言われ、対岸の火事ではいられない。ショッキングな出来事であった。さらに十数年に一度の集中豪雨による鬼怒川の氾濫、そして大水害。悲しい出来事が続き、3.11以降少し明るい未来を感じていたところであったのに。

さて、話は変わって先日、小学校時代の同級生から電話があり今度「還暦の会をやるので飲み会に集合」と声がかかった。??というのも還暦にはまだ2年あるはず。準備のためにこれから飲み会をしながら集まるということらしい。久しぶりにあった数人の同級生との少し早い忘年会は懐かしいひとときであった。と同時にお互いに随分老けたが、面影は昔のままですぐ昔話に花が咲いた。すでに退職した者、バリバリ働いている者、窓際の者、亡くなった者、、、。思えば遠くへ来たもんだ。

（生る）

9月10日の鬼怒川決壊による水害から2か月が過ぎました。常総市の被災された会員の皆様からお見舞いを申し上げます。未だに正常な診療体制に戻られていない先生もいらっしゃると思います。また、診療を再開されても、患者さんが歯科医院に通う状態になっておらず、本当の復旧には、まだまだ時間がかかるものと思います。

私の診療所は、つくばみらい市にあり被災地に隣接していますが小貝川の堤防により浸水が止められ、全く被害はありませんでした。しかし、3割ぐらいが常総市の患者さんですので、未だに影響は残っており、治療が中断のままの方も多数います。

11月に入り、やっと少し患者さんが戻って来ていますが、話を聞くと皆さんほとんど床上浸水とかで、一階部分の修理はほとんどめどが立ってお

らず、未だに二階部分に住んでいるとか、全部で数百万の被害だという方がほとんどです。また、車がないと生活できないような地域ですので、一世帯あたり平均2台ぐらいの車の被害もあるのではないのでしょうか。なるべく、治療前にお話を伺うようにしていますが、皆さん本当に疲れており、ため息を漏らす方や、涙ぐんでしまう方もいます。

既に閉鎖されましたが、つくばみらい市にも避難所が開設されていたため、衛生士会のご協力もいただき口腔ケア等のため避難所訪問に伺いましたが、うちの患者さんも数家族非難されていて、そこでもいろいろとお話を聞く機会がありました。

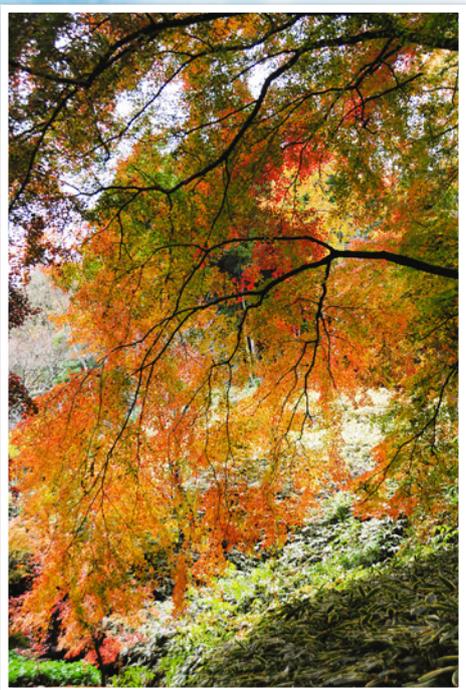
被災地の方々が、一日も早く元通りの日常を取り戻せるよう、心からお祈りします。

(Hisshy)



みんなの写真館

Photo
Gallery



(社) 日立歯科医師会 白土 和彦

会員数

平成27年10月31日現在

支 部	会員数(前月比)
日 立	123
珂 北	138
水 戸	159 -1
東西茨城	75
鹿 行	103
土浦石岡	172 -1
つ く ば	120
県 南	175
県 西	154
西 南	108
準 会 員	1
計	1,328 -2

みんなの写真館写真募集!

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、御自宅の古いアルバムに埋もれた写真などを御送り下さい。

1種会員	1,142名
2種会員	44名
終身会員	141名
準会員	1名
合計	1,328名



Ibaraki Dental Association

公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨 歯 会 報

発行日 平成 27 年 11 月
発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和 2 丁目 292 番地
電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075
ホームページ <http://www.ibasikai.or.jp/>
E-mailアドレス id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人 征矢 亘
編集人 菱沼 一弥



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。